

本年度副会長はこんな人

皆さん、今年の副会長の名前を全員言えますか？ 席次順に全員の名前を言えた人は相当の二弁通です。

ぼちぼち会務に参加していても、委員会などを通じて、担当副会長の名前と何となくの人柄を覚えた頃にだいたい任期が終わってしまうことが多いですね。

とはいえ、よく知らない副会長に声をかけるのは、特に若い人にはハードルが高いと思います。せめて、共通

の話題があれば、話しかけやすいのではないかと考え、小難しいテーマではなく、出身や来歴、趣味などについて副会長に自己紹介してもらいました。

本稿がきっかけで、副会長と会員のコミュニケーションがより活発になり、会務の活性化につながればと思いますので、これを読んだ会員の方は、ぜひ副会長に「二弁フロンティア見たよ～」と声をかけてください。



緑川 由香 (45期)
●Yuka Midorikawa

2020年度の副会長に就任いたしました緑川由香と申します。茨城県日立市の出身で高校卒業まで同市で過ごし、その後、早稲田大学法学部を卒業しました。司法修習期は45期で、実務修習地は仙台です。修習を終了した1993年4月から東京地方検察庁にて新任検事として任官しましたが、夫の米国留学に同行するため94年6月に退官しました。約2年間米国ワシントン州シアトルで海外生活を満喫し、帰国

した96年8月に当会において弁護士登録しました。

銀座にある弁護士7、8名の共同事務所で当初は勤務弁護士として、数年後からパートナーとして14年ほど勤めました。その後、法科大学院が有する法律事務所を経て、2013年から銀座に1人で法律事務所を立ち上げ、事務員1名と二人三脚で業務を行っていましたが、19年11月か



2019年 プチ・トリアノンにて

ら弁護士2名体制の共同事務所に移行し、現在に至っています。

弁護士登録後間もなく出産し、業務開始当初から家事育児とのバランスを考えてばかりの毎日でした。登録間もない頃は興味を持った複数の委員会に参加しましたが、休日に子どもに長時間幼児用ビデオを見せながら起案している自分の姿を顧みて、以降、仕事も委員会活動も数量を絞るけれど、熱量は落とさないというスタンスで進めるように心掛けました。出産後10年ほどは子どもを夜9時まで寝かせることを最優先事項とし、その後もしばらくは懇親会や夜に打合せがある仕事は控えてきましたが、記憶は上書きされるのか、子どもの手が離れて懇親会などで遅くなるここ数年間の行動が昔から続いていたかのような印象を子どもに与えているようで、引っ掛かりを感じるところです。

制約された働き方のなかでも、所属した事務所の多大なるご理解や様々なご縁に恵まれて、興味があったメディア関係の事件で最高裁での

弁論をしたり、いくつかのいわゆる特捜案件に携わったりしました。メディア問題を含む表現の自由の調査研究は日弁連の人権と報道に関する調査研究部会に所属して続けており、また、メディア関係の第三者委員会やプライベートで映画を観る会に参加するなどして、刺激を受けています。複数の弁護士や専門家と議論ができる弁護団事件や委員会活動、また他業種で活躍する方々との意見交換は刺激的で思考が深まるので、これからも続けたいと思います。

2013年に子どもが1年間の留学に旅立ったのと同時に独立して1人で法律事務所を立ち上げました。そして子どもが社会人になったこの4月から当会の副会長に就任することになったのもご縁だと思います。弁護士と弁護士会を取り巻く諸状況には困難な問題があり、また、社会事情も目まぐるしく変わっていきませんが、弁護士会が適切に対応できるよう、微力ながら副会長として尽力したいと思っておりますので、ご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願いいたします。 ■



岡田 修一 (52期)
●Shuichi Okada

■普段の業務内容

一般民事を広く扱う、いわゆる街弁だと思えますが、建築関連紛争の事件割合が多いのが特徴です。

■副会長としての抱負

一般の方や修習生など、弁護士会外の方との交流が多い委員会も担当するので、そうした会外の方の弁護士会への期待・意見などを会運営にフィードバックしていければいいなと考えております。

■家族構成

妻と息子(4歳)の3人家族です。息子は私が45歳のときに生まれたので、少なくともあと20年は働かなければならないというプレッシャーはあります。

■出身地等

出身地は三重県四日市市です。父は医師で公務員だったのですが、官舎が津地裁四日市支部の隣にあり、子どもの頃はよく裁判所の敷地に入って遊んでいました(その当時は特に注意もされなかったのですが、今は恐らく無理でしょうね)。

高校までは四日市市で、その後同志社大学に進み、京都に行きました。高校のときは歴史学者になるのが夢で、国立大学の文学部を受験したところ、解答欄をすっとばすといふとんでもないミスをやらかして落ち、洪々私立の法学部へと行った流れだったのですが、それでも今は曲がりなりにも法律を仕事にし



2019年 石垣島海中にて

かにないから楽天イーグルスを応援しようか」くらいの感覚だったのですが、05年3月チーム結成第2戦、千葉ロッテマリーンズとの試合で26対0という記録的大敗を現地で観戦し、逆に「この球団が優勝するまで応援するぞ!」と愛着を持つに至りました。そのため13年の日本シリーズ優勝は、現地で涙を流すほど嬉しかったです。

ているというのは、“人間万事塞翁が馬”なんだと感じます。

修習地は徳島でした。阿波踊りでは、裁判所、検察庁、弁護士会それぞれが連（踊りのグループ）を出すのですが、それぞれの連に混じらせていただき踊ったのは良い思い出です。

■趣味

・プロ野球観戦

小学生のとき、後に“江夏の21球”として語られる近鉄×広島の世界シリーズをテレビで見てから、近鉄バファローズを応援してきました。2004年に近鉄球団が消滅した後、「ほ

・ジャズ鑑賞

修習生のとき、アートプレイキー『バードランドの夜』（特に冒頭曲“Split Kick”はジャズの魅力が全て詰まった名演中の名演!）を聴き衝撃を受け、1950年～60年代の演奏を中心に広く聴くようになりました。現代のミュージシャンですと、山中千尋さんが好きです。

・マリンダイビング

10年ほど前に始めました。特に7年前に潜った波照間島（沖縄）の海の美しさは忘れられず、常々再訪したいと思っているのですが、子育てや台風に阻まれ、まだ実現できていません。

■



國貞 美和 (53期)
●Miwa Kunisada

1.出身地、出身高校、出身大学、修習地

私の出身地は東京で、小学校から高校まで日本女子大学附属校で過ごしました。出身大学は上智大学です。中学生のときに剣道部に所属し、高校生ときには弦楽部に所属しました。大学生のときに再び剣道部に所属し、三段をとりました。

実務修習地は新潟です。当時、新潟修習生は8名で、皆仲良く、楽しい修習生活を送りました。新潟に行く前は、余り日本酒をいただ

くことはなかったのですが、新潟の美味しい水とお米を使った淡麗辛口の地酒に、すぐに心を奪われました。お陰で、今でも日本酒党です。

2.趣味

独立開業してから、ゴルフを始めました。初め、インドアの練習場に通ったものの、全く上達せず、いろいろ調べてコースレッスンに通うようになりました。芝生の上での練習が良かったのか、しばらくしてスコアは100を切りました。熱心に練習していた時期に、90を切ったこともあるのですが、近頃は鳴かず飛ばずです。

スコアはともかく、広々したコースに出て、日光を浴び、草木を目にしながらラウンドすると、とても良い気分転換になります。日頃運動をしないので、健康のために、少しでも時間を作ってラウンドしたいと思っています。

3.愛読書？

昨年度は、公益財団法人日弁連交通事故相談センター東京支部の算定基準部会長を務めさせていただきました。同支部では、毎年、民事交通事故訴訟損害賠償額算定基準（通称「赤い本」）を発行しています。本年2月に発行された2020年版の赤い本は、掲載する裁判例の入替えを行うだけではなく、本年4月1日施行の改正民法（債権関係）等を踏まえて基準そのものの見直しを行い、資料・付録部分についても全面的に改訂しました。

支部委員の方々の相当なご尽力によりできあがった2020年版の赤い本を、ぜひ、多くの皆様に手に取っていただければと思っています。私にとって、2020年版の赤い本は、愛読書というより、我が子のようなものです。

4.長所と短所

長所は、真面目で粘り強いところだと思っています。昨年度の算定基準部会長を何とか終えることができたのも粘り強い面があったからだと思います。

短所は、粘り強さとは矛盾するのですが、熱しやすく冷めやすいところがあります。ゴルフのように長年続いているものもあるのですが、例えば、健康器具を買ったものの、しばらくして全く使わなくなるなど、3日坊主のところがあります。また、頑固で融通が利かないところもあります。人からはよくマイペースと言われ、これは、良い面も悪い面もあるようです。これから多くの方々とお目にかかる機会があると思いますので、いろいろ学び、少しでも柔軟さを身につけていきたいと思っています。

5.今年度の抱負

1年間、会員の皆様のご意見を謙虚に受け止めながら、会員の皆様のお役に立てることは何かを日々模索し、会長はじめ理事者・事務局と連携して、副会長としての職責を果たしてまいりたいと思っています。

ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。



2020年版赤い本



豊田 賢治 (54期)
●Kenji Toyota

令和2年度副会長となりました豊田賢治です。修習期は54期です。出身地は微妙なのですが、茨城県で生まれ、自衛官であった父親の転勤のため埼玉県に引っ越し、その後小学生時代を北海道（恵庭、釧路）で、中学生時代を茨城県で、高校生時代を埼玉県で過ごし、大学生時代から東京で暮らし始めたという経歴のため、個人的には「道産子」かな、と思

っています。出身高校は開成高校（高校から）、出身大学は東京大学（1浪、1留）です。卒業後、司法試験を受け始める前にフリーターのような立場で結婚してしまい、意地で司法試験に受かりました。司法修習地は東京でした。大変幸せな修習生生活を送れたと思います。

弁護士になったときから「将来は独立して自分の事務所でやりたい」と思っており、渉外大手法律事務所と外資系法律事務所に合わせて4年間ほど研鑽を積み、平成18年に独立し、それ以来14年が経ちます。独立してからこれまでやってこられたのは、趣味の草野球や漫画・アニメ、ゲームを楽しんでいたほか、旅行に行ったり、好きなお酒をたしなんだりすることで適度にストレスを発散していたからだと思います。




南米チリのピチレムにて

弁護士になってから国内外各地を旅行しました。特に思い出に残っているのは、チリ旅行です。日本から片道30時間もかかるのに2度も行きました。当時、友人の弁護士の父親が在チリ日本大使で、大使公邸で食事をさせてもらったりしたのは楽しい思い出です。ちなみにチリは日本以上に南北に長い国で、何と北端から南端まで4,300キロ以上あります。東西は170キロほどで西端が海拔ゼロメートルなのに、東端は最高峰6,893メートル（!）という極端な国土の中に、北は亜熱帯から、砂漠地帯、地中海性気候地帯、ツンドラ地帯、南端の氷河地帯までと様々な気候があります。ご興味のある方は、ぜひ旅行先の候補に入れてみてください。なお、イースター島はチリ領ですが、チリ本土からはかなり離れていますので、お気を付けください。

ちなみに、お酒の話ですが、私は、ビール、ワイン、日本酒、

焼酎、ウイスキー、紹興酒、そのほか何でもいけます。皆さんにはまだなじみが薄いかもしれないものとしてはクラフトビールがあります。「所詮ビールだろ」と思われるかもしれませんが、実はベルギービールに代表される小規模醸造所のビールは驚くほど多様です。最近の世界的な潮流としては、アメリカ西海岸で特に広まったIPA（インディア・ペールエール）というタイプのクラフトビールが人

気を博しています。美味しいです。私もお店にIPAがあれば必ず頼むほどです。まだ味わっていない方は、ぜひ試してみてください。IPAの名称の由来を知っていると、ちょっと物知り顔もできたりします。

令和2年度はお酒を飲む会合に出ることがこれまでより難しくなりそうですが、懲りずにお誘いいただければと思います。よろしくお願いたします。 



千葉 理 (57期)
●Osamu Chiba

この度、令和2年度の副会長に就任することとなった千葉理です。副会長在任期間中は精一杯、二弁のために尽力したいと思っておりますのでどうぞよろしくお願いいたします。

私は、平成16年に当会に登録した後、常議員を務めるほか、綱紀委員会、紛議調停委員会、倫理委員会等に所属し、紛議調停委員会では副委員長を務めました。

今年度は、当会の副会長として、綱紀委員会、紛議調停委員会、NIBEN若手フォーラム、弁護士業務センター、高齢者・障がい者総合支援センター、犯罪被害者支援委員会、民事介入暴力対策委員会等の委員会を担当いたします。

私は、昭和62年に東京大学法学部を卒業後、当会に登録する前の13年間ほど、三菱商事株式会社に勤務した経験があります。当時は弁護士になろうとは思っていなかった訳ですが、結果

として、この商社マンとしての経験はその後の弁護士人生に大いに役立ちました。教科書などでは学べない、交渉術、人間観察術、接待術等、商社マン業も奥が深く、私が全てを習得できたとは到底思えませんが、それらを渾々と教えてくれた商社マン時代の諸先輩方には感謝に堪えません。その上、それなりに



ロンドンの劇場にて

いい給料ももらい、更には世界中出張に行かせてもらって。バブル期の商社マンを謳歌したわけで本当にいい思い出です。若い人達には、法曹資格を獲得した後も目先の就職先を法曹業界に拘泥しないで、1つのキャリアとして数年でも別の業界を一時期経験したらどうかと思うこともあります。

その後経験した弁護士業と比較してみると、定年が無くて組織に縛られない弁護士業は本当に魅力ある仕事だと確信しています。その中で、昨今の法曹希望人口が減少していることは本当に残念に思っています。この傾向に歯止めをかけるためにも、何とか弁護士会として、業務拡大や若手支援等により魅力ある弁護士業の実現を若手に理解してもらいサポートできたらと思っています。

趣味は、ゴルフ、海外旅行、映画・演劇鑑賞です。特にゴルフは、大学時代から部活でやっていましたが、現在も週1回の頻度で所属するゴルフ倶楽部に通うなど、これほどまでにゴルフが一生の趣味になろうとは思って

ませんでした。ゴルフの腕と飛距離は年々落ちる一方ですが、最高のストレス発散方法であり、また良き仲間との出会いの機会となっています。また、毎年1回、長期で休暇を取って、妻と海外旅行に行くのを楽しみにしています。映画やコンサート・ミュージカルにも妻とよく行きます。好きな映画と言われても沢山ありすぎて特定するのは難しいですが、高校時代から名画座に通うなどかなりの量の映画を観てきた自信があります。好きなミュージカルは何と言っても『オペラ座の怪人』です。最近、ミュージカル好きが高じて、業界内外の諸先輩方の影響もあってオペラやバレエも観に行く機会ができました。こんな私ですが、医者から最近、ゴルフもいけれど、歳をとるとどうせできなくなるからもっと文化的な趣味を今から持ちなさいと言われて困っています。

今年度はそれらの趣味は差し控えて、副会長職を全うしたいと思いますのでどうぞよろしくお願い申し上げます。 ■



西川 研一 (60期)
●Kenichi Nisikawa

このたび令和2年度(2020年度)副会長に就任いたしました。誠心誠意、取り組んでまいります。至らないところばかりかと思いますが、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。

まず、必要的記載事項として出身地、出身高校、出身大学、修習地をとのことですので、この点から始めてまいります。出身地は、京都ではありますが、山科区という市内でも滋賀との県境に位置するところです。地元エピ

ソードで一番有名なものは、大石内蔵助が討ち入り前に隠遁した場所ということ。京都の端っこにふさわしいエピソードです(笑)。

出身高校は、山科にある洛東高等学校という府立高校です。疎水が流れる少し高台にあり、登下校は桜並木の坂道を通ったり、校舎上階からは山科の街が一望できたりするナイスなロケーションの高校でした。

出身大学は、京都にある立命館大学です。キャンパスは衣笠という金閣寺の近くでしたが、在学中に金閣寺に行くことは一度もありませんでした。今から思えば、もったいないことをしたと思いますが、地元にいるとなかなか行く機会がないものです。

修習地は、この流れからもご想像いただけるように京都です。当時は、京都南座の歌舞伎を見に行く歌舞伎修習や、裏千家だったかと思いますが茶道を学ぶ茶道修習など、京都ならではの修習を京都弁護士会の先生方が企



2020年 事務所の国際空港にて

画してくださり、地元京都のことを改めて知ることができました。

ここからは任意的記載事項とのことなので、自分が好きなことを挙げてみます。ただ、自分は広く浅くしか取り組めない性分ということが、最近分かってきましたので、趣味というにはおこがましく、それほど詳しいわけはありません（すみません）。この点ご了承ください。

まず、乗り物。世の乗り物好きの子どもと同じで、自分も物心ついたときからクルマや鉄道が大好きでした。いまだに、クルマや鉄道、飛行機などは、眺めるのも、乗るのも、運転するのも（運転はクルマだけですが）、どれも好きです。三つ子の魂百までとはよく言ったものだと思います。

次に、音楽。過去に楽器をやってみたこともあるのですが、結局全く歯が立ちませんでした。それ以来、演奏は他の方々にお任せし、音楽は専ら聴く方を専門とすることにしました。ジャズ、ソウル、ボサノヴァ、そしてクラブジャズ系のようなクラブミュージックな

どを楽しんでいます。音楽そのものの素晴らしさ、作品に込められた自由や平等のメッセージは、今の自分にとって大きな糧になっているような気がします。

そして、酒。「酒は百薬の長だから」と正当化して、楽しんでいます。以前はウイスキーや日本酒でしたが、最近はワインが加わっています。「つまらないワインを飲むには、人生は余りにも短すぎる」という名言を覚えてからは、これを錦の御旗に、手頃だけれど旨いといわれるワインを探しては楽しんでいます。

とはいえ、今年1年間は、副会長を務めさせていただくわけですので、何よりも会務を優先し、二弁の発展のため、岡田会長を支え、他の副会長の先生方のお力となりつつ、微力ながら尽力してまいります。 ■